

# OSAKA

## 熱い戦いが繰り広げられた ロボカップ2005 大阪世界大会

7月13日から19日まで「ロボカップ2005大阪世界大会」が、大阪市のインテックス大阪において開催された。世界大会は9回目、日本での開催は3回目になる。参加チーム数は31カ国から300（ジュニアを含む）を超えて過去最高、参加者数も2000人近くというビッグイベントだ。主催の大阪市がロボットビジネスに注力していることもあって、全面的にバックアップ。多くのパートナー企業と協賛企業を得て、規模的には過去最大の大会となった。

今回のトピックは何といってもTeam OSAKAだろう。昨年は「VisiON」で、ジャパンオープンとリスボン世界大会のヒューマノイドリーグを完全制覇。今年は満を持して投入する「VisiON NEXTA」で、地元大阪での完全制覇を目指す……とまあこんなキャッチフレーズだったわけだが、もともとが今回の世界大会に向けて結成されたプロジェクト。実力的にはアタマ10個分は飛び抜けているものの、何が起こるか分からないのがロボット競技。この大会を獲れなければ意味がない、という暗黙のプレッシャーをはねのけて、そう、もう先に結果を言ってしまうが、完全制覇を果たしたのはお見事だった。



大阪市役所前。大会を告知する看板と街灯ペナントが見える。ペナントは市内の各所でも見られた。

大阪市が先導した事前プロモーションが功を奏したのか、Team OSAKAが登場する時間帯のヒューマノイドリーグ会場は常に満席。土日には会場外にも人が溢れる状態だった。メディアの注目度も高く、多くのテレビカメラがTeam OSAKAの姿を追いかけていた。

あきの じゅんや  
浅野 純也

### Team OSAKAが盛り上げた ヒューマノイドリーグ RoboCup 2005

そのヒューマノイドリーグでは、今回から新たに2対2の対戦が始まり、よりサッカーに近い競技を目指したようだが、PK戦もままならないエントリーが多い中では、まだまだ時期尚早な香りが漂っていた。

Team OSAKA以外で「そこそこ動く」機体を持ち込んだのは、ドイツのNimbRoとROBO-ONEでもおなじみのHajime、シ

ンガボールのTeam Ropeくらいなもの。2対2もPK戦も、試合としての体裁が整うのはこの中での対戦くらいなもので、これ以外のチームは延々と調整時間だけが費やされた結果、何も起こらないという状況が頻出した。

基本性能に秀でたVisiON NEXTAは、キッカーとキーパーそれぞれがPK戦にお

ける所定の機能、つまりボールを見つけてのシュートと、蹴り込まれたボールに反応してのセービングがほぼ確実にできるもので、2対2においてもPK戦においても、予選、決勝を通して危なげなく勝ち進んだと言える。

倒れたあと立ち上がれないロボットがほとんどだったが、日本のROBO-ONEを見慣れた目にはどう映ったのだろうか。

個人的にリーグ最大のトピックはテクニ



ヒューマノイドリーグ最大のシーケンス。VisiON NEXTAのチャレンジ成功のシーンだ。不整地を歩くVisiON NEXTAをフォローする表情に注目。会場の観客も報道陣も同じ気持ちだった。